

第6期 pES club シナリオ 3

平成 19 年 4 月 1 日
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは海老伝巢医科大学病院の1年目前期研修医で、現在、循環器内科をローテーション中です。

棟谷圭さん（78歳男性）は狭心症の疑いで、今回心臓カテーテル検査目的に入院されました。カテーテル検査も無事に終わり、特に有意病変もなかったため、明日退院することとなりました。あなたが退院の手続きを進めていると、上級医の楠力雷先生から電話がかかってきました。

楠力先生「先生、今何してる？」

あなた「棟谷さんの退院の処理をしています。退院時処方を入力しているところです」

楠力先生「棟谷さん、胃薬飲んでいるだろ？」

あなた「はい、オメプラールを飲んでます」

楠力先生「それ、切っといて」

あなた「え？中止ですか？」

楠力先生「そうだよ。だってずっと飲んでるんだろ？もう要らないよ」

あなた「でも、逆食があるんですよ。3ヶ月前に内視鏡をやったときに、逆食があるのが分かって、それで飲み始めたんです」

楠力先生「3ヶ月も飲んでるんだろ？長すぎるよ～。第一、棟谷さんはなにか症状あるのか？」

あなた「いえ、別にないようです」

楠力先生「なら要らないだろ。あのな、PPIを飲んでると、骨折しやすくなるんだ。大腿骨頸部骨折にでもなって、寝たきりになったら大変だろうが。いいか、切っておけよ」

あなた「で、でも先生・・・」

楠力先生「ガチャッ！」

楠力先生は忙しかっただけで、一方的に電話を切ってしまいました。納得のいかないあなたは、オメプラールが大腿骨頸部骨折のリスクになるのか、調べてみることにしました。

第6期 pES club シナリオ 3 (追加シナリオ)

平成 19 年 4 月 1 日
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

棟谷さんは3ヶ月前に胸やけを主訴に当院消化器内科を受診，上部消化管内視鏡で逆流性食道炎 Grade A を認め，オメプラール20mg 分1を開始しました．その時の内視鏡所見には，「十二指腸：異常なし，胃：全体的に粘膜の萎縮を認める，食道：胃食道接合部直上の食道粘膜ヒダに限局する粘膜のびらんを認める．診断：逆流性食道炎 (Los A)」と書かれていました．また，消化器内科のカルテには，「assessment は“逆流性食道炎”，plan は“PPI を開始”」と書かれていました．生活習慣の指導についての記載は見あたりませんでした．

その後労作時に胸痛が起こったため当院循環器に紹介されましたが，消化器の方は落ち着いているので，オメプラールを継続で処方するように申し送りがありました．消化器内科は診察終了とのことで，外来予約は入っていませんでした．上部消化管内視鏡の再検はされていません．

棟谷さんは約20年前から高血圧を治療中ですが，ダイクロトライド12.5mg 分1を内服中で，血圧140/90mmHg程度です．糖尿病は指摘されていません．タバコは24歳から1日1箱程度を吸っていましたが，63歳の定年を期に禁煙しました．お酒は好きですが，量は以前ほど飲みません．食事は規則正しく3食食べるようにしていますが，それ以外は，日常生活上，特に気を付けていることもありません．また，家族に心筋梗塞や狭心症と言われた方はいません．